

## ティーチング・ポートフォリオ

史学科 高津 純也

(記入日： 2019年 9月 24日)

### 1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

アジア史研究入門(1) (1年前期必修)、アジア史概説(1) (2年後期必修)、アジア史演習(1) (3年選択必修)、アジア古代文明論 (3~4年前期選択必修) など

### 2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

日本を含む上位ブロックである東アジア世界の歴史文化社会について学び、また自ら調べ自ら考えることによって、現在および未来をよりよく生きるための教養、および社会で活躍するためのスキルを身につけることを目標とする。

### 3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

アジア史研究入門(1)においては、最終課題であるレポートのテーマを自ら決定しやすいよう、『世界史リブレット』シリーズ (山川出版社) の中から任意の書籍を選ばせることとした。アジア史演習(1)においては、漢文資料の読解にあたり、参加者相互で協力して進展させることを促した。また関連する課題についてのレポート作成にあたり、有用な参考文献や関連資料を教員が示唆することで、レポートのレベル向上を図った。

### 4 成果 (どうだったか：結果と評価)

アジア史研究入門(1)においては、受講者のほとんどが授業時間外に『世界史リブレット』の任意の1冊を通読し内容を理解した上でレポートを作成していることを確認できた (エビデンス1)。アジア史演習(1)においては、自らの文献渉猟と担当教員の示唆とを材料にレポートを作成していることを確認できた (エビデンス2) が、漢文資料を授業時間外にどのように読解してきているかは確認できず、従って相互協力の度合いなどについても学生の自己申告に依拠せざるを得ない。

### 5 今後の目標 (これからどうするか)

ゼミで講読する漢文資料の選択を見直す、レポート作成のために利用する参考文献をより多様化するように促す、などの工夫により、授業時間外の学習時間を増やし、かつ提出されるレポートの完成度を高めさせられるよう努力する。

### 6 エビデンスとなるもの (資料の種類などの名称)

1. 期末レポート (添削・講評記入ののち提出者に返却)
2. ゼミ各回のレポート (発表・討論ののち教員保管)

## ティーチング・ポートフォリオ

大西 克典

(記入日： 2019年 9月 22日)

### 1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

西洋史概説(1)、交易の歴史、基礎ゼミナール、コミュニケーション能力演習、西洋史演習(2)、史資料演習、文献講読(1)

### 2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

- ・ 西洋史に関する基礎的な知識を身に着けさせるため
- ・ 学生自らが情報を主体的に獲得し、歴史的な知識に裏打ちされた考察を行うことができるようにするため

### 3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

- ・ 学生の理解度や知識の定着度を測るために、小テストやリアクションペーパーを活用した。(西洋史概説(1)、交易の歴史)
- ・ office 365 上に資料を上げ、URL を QR コードにして学生に伝えることで、講義資料をいつでも簡単に閲覧することができるようにした。(西洋史概説(1)、西洋史演習)
- ・ office 365 のアンケート機能を用いて、学生個々人の興味関心を入力してもらい、その結果をもとに面談することで、学生の興味関心等を掘り起こせるよう努めた。(西洋史演習)

### 4 成果 (どうだったか：結果と評価)

- ・ Office 365 上に資料を上げることで、時間や場所の制約を受けずに、学生がデータにアクセスでき、主体的な学習を促すことにある程度つながった。
- ・ しかし、コメントペーパーや小テストの結果を見ると、成績上位の学生と成績下位の学生の間、大きな差が生まれている実態が浮き彫りになったので、成績があまり振るわない学生に学習・研究を促す必要がある。

### 5 今後の目標 (これからどうするか)

- ・ クラウドを用いた授業資料の配布を続ける一方、それらを用いた事前・事後学習へと導く工夫を行う必要がある。

・特に成績の振るわない学生や明らかに基礎知識が不足している学生については、フォローアップする機会を設けたい。

6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

1. 西洋史概説(1)講義資料
2. 交易の歴史講義資料
3. 西洋史演習(2)資料
4. リアクションペーパー及び小テスト(西洋史概説(1)、交易の歴史)

## ティーチング・ポートフォリオ

(記入日:2019年 9月 23日/史学科 辻 明日香)

### 1 教育の責任(何をやっているか:担当科目)

基礎演習(1年前期必修科目、2単位)、コミュニケーション能力基礎演習・文献講読演習(2年前期・後期選択必修科目、各2単位)、アジア史演習(2)(3年通年選択必修科目、4単位)、史資料演習(4年通年必修科目、4単位)、アジア史研究入門(2)(1年後期必修科目、2単位)、アジア史概説(2)(2年前期必修科目、2単位)、西・南アジア史(3-4年後期選択必修科目、2単位)など。

### 2 理念(なぜやっているか:教育目標)

各学年の演習においては、学生が読む力、書く力、論理的に考える力を身につけることを目標としている。自ら問題を具体的に設定し、網羅的に資料を収集し、それを報告するというプロセスを通じて、自ら調べ学ぶという態度を身につける機会を提供する。講義においては、西アジア史の事例を通じて、学生が歴史と現代世界に対する広い視野と深い洞察力を養うことを目標とする。

### 3 方法(どのようにやっているか:実践の工夫)

各講義においては毎回リアクションペーパーに講義内容のまとめや疑問、発見を書かせ、よいものは次週に紹介した上で、ペーパーは振り返りのために学期末にまとめて返却した。各演習の報告・質疑応答の時間においては、学生たちの積極的な発言を促す工夫をし、学生が相互に学びあう環境を作るよう心がけた。また、レポート作成のプロセスを細かく分解し、学生がレポート作成の仕組みを理解できるよう工夫をした。

### 4 成果(どうだったか:結果と評価)

前期のアジア史概説(2)においては、リアクションペーパーの成果もあり[エビデンス1]、歴史の流れを説明する記述問題に良い解答が相次いだ。基礎演習・コミュニケーション能力基礎演習においても、発言やレポート作成に対する苦手意識を克服しつつあるというコメントを複数得た。他の科目は後期開講、あるいは通年であるため、後日評価をしたい。

### 5 今後の目標(これからどうするか)

授業時間外の学習により多くの時間を割くよう促していきたい。そのためにはクラウドに資料をおく(グーグルクラスルームの活用など)などの方法を検討する。

6 エビデンスとなるもの(資料の種類などの名称)

リアクションペーパー(エビデンス 1 非公開)

## ティーチング・ポートフォリオ

辻 浩和

(記入日：2019 年 9 月 24 日)

### 1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

日本史研究入門(1年後期必修科目 2 単位)、日本史概説(1)(2年前期必修科目 2 単位)、文献講読(1)(2年前期必修科目 2 単位)、文献講読演習(2年後期選択必修科目 2 単位)、日本史演習(2)(3年通年選択必修科目 4 単位)、史資料演習(4年通年選択必修科目 4 単位) など

### 2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

学生が、歴史的経緯や社会的背景に照らして現状の問題点を発見し、様々な種類の文献資料を的確に読解・分析することで、その解決に至る能力を身につけること。

### 3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

学生が文献から様々な「問い」を立てられるよう、段階的な工夫を行っている。日本史研究入門・日本史概説ではコメントシートの講評によって発問の仕方を身につける。文献講読演習や日本史演習では、テキストの輪読や研究報告の中で、多様な観点から質問が出るよう質問カードを事前に準備し、討論の素材として活用させるほか、報告者にトピックの作成を義務付ける。史資料演習では、個人面談の形で問題を掘り下げる方法を学んでもらっている。

### 4 成果 (どうだったか：結果と評価)

コメントシート、質問カードの利用は、回を重ねるごとに、それまでの学習成果を踏まえた、より多様な質問が出るようになった(エビデンス1)。文献講読演習・日本史演習・史資料演習では、毎回の討論を通じて、他者の分析視点を取り入れたトピックが目立つようになった(エビデンス2・3)。

### 5 今後の目標 (これからどうするか)

様々な発問を、どのように組み立てればよいかという構成法の指導を増やしたい。演習での討論に誘導をかけるほか、レポート添削を強化する。

### 6 エビデンスとなるもの(資料の種類などの名称)

- 1 コメントシート・質問カード(非公開)
- 2 文献講読演習・日本史演習・史資料演習ガイダンス資料(非公開)
- 3 学生作成のレジュメ(非公開)

## ティーチング・ポートフォリオ

文学部史学科 講師 中園有希

(記入日： 2019年 9月 22日)

### 1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

- ・「教育方法学」(児童)(2019年度前期)
- ・「教育方法学」(中高・目白)(2019年度前期)

### 2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

教育の方法や技術、情報機器や教材の活用に関する国内外の多様な理論や教育実践に触れ、また実践することで、現代の授業実践に対するそれらの影響を理解するとともに、基礎的な技能、知識を養うため。

### 3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

- ・グループワーク：グループワークを重視し、1学期当たり3~4回を、グループワークを実施する回とした。また、付箋を利用したKJ法をグループワークに導入し、より効果的、創造的なアイデアの交流を促している。
- ・映像及び事例の活用：教育実践の複雑さや解釈多様性について理解を深めることを目的とし、映像や事例を活用した。具体的には、授業のVTRを視聴しつつフィールドノーツの作成を行い、その後グループワークで授業の検討を実施する演習を複数回実施した。
- ・反転授業方式の導入：「YouTube」を中心とするWeb上の動画リソースを指定して、ワークシートを用いた事前学習を行わせ、対面授業時は動画の内容を基にしたディスカッションや実習、演習を実施する回を1学期間に2~3回設けた。ディスカッションやグループワークに時間をかけた丁寧な指導を行うことが可能となった。
- ・電子黒板及びタブレットPC端末の活用：電子黒板及びタブレット端末の基本的操作の実習とデジタル教科書を活用する学習指導案の作成の指導を行った。

### 4 成果 (どうだったか：結果と評価)

2019年度前期「教育方法学」(児童)については、学内の授業アンケートが実施されている。それによると、「授業内容に触発され、もっと勉強したいという気持ちになりましたか？」に75%の回答者が「そう思う」「どちらかというと思う」、「教材(テキスト・視聴覚資料・配布資料等)の利用は効果

的でしたか？」に 75%の回答者が「効果的だった」、「どちらかというと効果的だった」と回答した。また、「総合的に判断して、この授業に満足できましたか？」87.5%の回答者が「満足できた」、「どちらかという、満足できた」と回答した。

また、「授業に出席するにあたり、予習、復習など必要な学習をしましたか？」にも 62.5%の受講者が「そう思う」「どちらかという、そう思う」と回答した。

## 5 今後の目標（これからどうするか）

とりわけ児童教育学科対象の「教育方法学」においては、2年次開講ということで受講者間の人間関係が既に（時にいびつな形で）確立していることが多く、年度によってグループワークのグルーピングの仕方に工夫が必要である。また、互いの見方、考え方に踏み込むことに躊躇する余り、グループワークの結論が両論併記になる傾向もみられ、教育方法の更なる工夫が必要だと考える。

また、本授業では、終盤に ICT 機器を活用した授業の学習指導案の作成をグループで行わせている。この指導案については、本来であれば模擬授業の実施まで行うべきものだと考えるが、時間の関係で指導案の発表にとどまっていることが今後の課題である。

## 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

1 . 2019 年度前期「教育方法学」授業評価アンケート  
(<https://kgwu-cloudtrir.com/wa/research/WA1040/>)



## ティーチング・ポートフォリオ

橋本 磨美

(記入日：2019年 9月 22日)

### 1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

【司書養成課程科目】図書館概論，図書館サービス概論，情報サービス論，図書館制度・経営論，図書館情報資源概論，図書館情報資源特論，児童サービス論，図書・図書館史，情報サービス演習(1)，(2)，情報資源組織演習(1)，(2)

【司書教諭課程科目】読書と豊かな人間性，情報メディアの活用

【共通教育科目】情報リテラシー，キャリア・プランニングⅡ(1)

### 2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

司書養成課程科目での学びをとおして，社会人として地域とどのようにつながっていくのかという視点から物事を捉えられることを目指した。

### 3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

図書館業務の専門職としての理解を深めるため，講義をつうじて次の取り組みを実践した。基礎科目(図書館概論，図書館制度・経営論)で司書業務の基本的な知識を修得し，図書館サービスおよび図書館情報資源に関する科目(情報サービス論等)で，①大学図書館を活用し多様な図書館情報資源に触れること，②学外見学をつうじて図書館サービスおよび資料管理の実態に触れ，講義で学んだ内容の理解を多面的に深め，レポートにまとめることを実践した。

また，授業内容の確認等のために，コメントシートを通じた疑問点の確認と次回の講義におけるフィードバックを実施した。

### 4 成果 (どうだったか：結果と評価)

コメントシートをつうじた疑問点の確認と，授業での振り返りを繰り返すことで，講義内容の理解を深めることができた。基礎科目から各論への展開において図書館の現場を知る機会を設けたことで，職員・資料・利用者の関わりの実態を体感した。大学図書館を活用した情報資源の活用については，授業時間内のみの利用に留まった学生もみられた。

### 5 今後の目標 (これからどうするか)

今年度から，図書館概論において授業時間外に取り組む課題として日本十進分類法に対応した選書と書誌作成を課し，学生の取り組み状況を把握していく。

### 6 エビデンスとなるもの (資料の種類などの名称)

コメントシート

## ティーチング・ポートフォリオ

史学科 金尾健美

(記入日：2019年09月26日)

### 1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

史資料演習、西洋史演習(1)、商業の歴史、文献講読(2)、文献講読演習、西洋史研究入門(1)、西洋史研究入門(2)、ヨーロッパ古代文明論、フランス語で読む文化と社会、歴史学、コミュニケーション能力基礎演習。

### 2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

ヨーロッパ文明の様々な局面に注目して、少しでもその全体像を理解させることが根本的目標である。具体的には、「商業の歴史」では14-15世紀のヨーロッパ金融業を論じ、経済活動に必須であることを理解させる。「ヨーロッパ古代文明論」では、ケルトの文化がヨーロッパ文明に深く根ざしたものであり、キリスト教信仰にも大きな影響を与えたことを解説する。「西洋史研究入門(1)」および「西洋史研究入門(2)」は1年生必修科目であり、ヨーロッパ文明の形成と発展を理解するうえで重要なポイントを理解させている。

「西洋史演習(1)」(3年生対象)は史料と論文の輪読を行い、精読を続けることで参加者が個人テーマを発見できるように指導している。

### 3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

講義科目ではプリント(講義内容の箇条書き要約)を作成・配布して、ノート作成を容易にし、講義の理解を助けるように工夫している。

### 4 成果 (どうだったか：結果と評価)

専門用語、固有名詞を正確に理解するうえで、また欠席した場合の自習のために、印刷物は必須であり、十分な効果を挙げたと評価できる。

中間レポートと期末試験によって、学生の理解度を確認することが出来た。

### 5 今後の目標 (これからどうするか)

学生がより理解を深めることが出来るように、プリント(レジュメ)の工夫を重ねたい。

### 6 エビデンスとなるもの(資料の種類などの名称)

大学ホーム・ページ「講義要綱」

